

I 研究の概要

1 研究のねらい

本市においては、「第3期室蘭市学力向上基本計画」を平成29年3月に策定し、本市教育委員会、本市教育研究所、各小・中学校が一体となった取組を推進している。

本研究所においては、「第3期室蘭市学力向上基本計画」で示されている教育研究所の役割に基づき研究主題を設定し、本市の教育課題である「子どもたちの確かな学力」を育む教育研究を推進していくこととした。

2 研究主題

「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた指導の工夫」



主題設定の理由

(1) 「室蘭市学校教育の重点」から

室蘭市教育委員会が示した令和元(平成31)年度の「学校教育の重点」は、次の4点である。

- | | |
|-----|------------------------------------|
| 重点1 | 創意と活力に満ち、魅力ある信頼される学校づくりの推進 |
| 重点2 | 基礎的・基本的な学習内容の定着とこれらを活用する力や自ら学ぶ力の育成 |
| 重点3 | 豊かな心と自ら考え行動できる力の育成 |
| 重点4 | 健康・安全教育の推進と学習環境の整備 |

このうち、「重点2」を本研究所の研究課題と結びつけ、その課題解決に資する教育研究を推進していく。

(2) 本市の子どもたちの実態と課題（全国学力・学習状況調査、標準学力調査の結果）から

全国諸調査で明らかになった本市の子どもたちの実態と課題（下記参照）を踏まえ、これらの課題解決に資する教育研究を推進していく。

【児童の学力課題】



<国語>

- 文の構成の工夫や効果を捉え、適切な内容を取り上げて書くこと。
- 目的に応じて必要な情報を的確に捉え、自分の考えを明確にしながらか読むこと。

<算数>

- 数量の関係を正しく理解し、発展的に考察し、数学的に表現すること。
- 示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈すること。
- 資料の特徴を複数の観点で捉えて、正しく情報を読み取ること。
- 日常生活の問題の解決のために、複数の情報を関連づけて論理的に考察し、判断の理由を説明すること。

【生徒の学力課題】



<国語>

- 漢字を正しく書くこと。
- 文の成分の順序や照応に注意して書くこと。
- 目的に応じて話の構成を工夫し、聞き手の反応を踏まえながら話すこと。

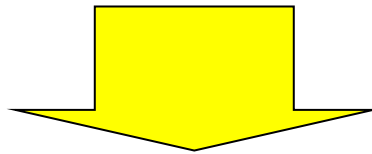
<数学>

- 情報を整理分析し、事象の起こりうる確率を求めること。
- 筋道を立てて考え、証明すること。
- 事象が成り立つ場合を、根拠を明確にして説明すること。

【児童生徒の学習・生活習慣の実態（課題面）】

<全国平均と比べて>

- 日常の読書習慣が身に付いている児童生徒の割合が低い。
- 家庭学習を十分行っている児童の割合が全国に比べて低い。
- 自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合が全国に比べて低い。



- 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と活用力の育成，学習意欲の向上
- 望ましい学習習慣・生活習慣の確立，学習環境の整備，学習規律の徹底
- コミュニケーション能力の育成

(3) 「第3期 室蘭市学力向上基本計画」から

【各学校における取組 M.A.P (室蘭アクションプロジェクト)】



上記の各学校における取組のうち本研究所においては、主に MAP③「授業改善」や MAP④「学習環境づくり」、MAP⑤「現代的課題への対応」に焦点を当てて調査・研究を進めるとともに、それらの研究成果を市内各小・中学校に提供していくこととする。

【学力向上基本計画における教育研究所の役割】

- ① 主体的・対話的で深い学びに係る研究推進
 - 研究所員による研究推進，調査研究
 - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ② ICT活用に係る研究推進
 - 研究所員による研究推進，調査研究
 - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ③ 道徳教育に係る研究推進
 - 道徳教育に係る研究推進，調査研究
 - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ④ 外国語教育に係る研究推進
 - 外国語教育のモデルカリキュラムの作成
 - 外国語教育に係る研究推進，調査研究
 - 研究所員による研修講座，公開授業研究会の実施
- ⑤ 今日的な課題に係る研修講座の開催
 - 各小中学校への情報提供，教職員の研修促進

上記の教育研究所の役割に資する研究を推進していく。研修講座や公開授業研究会については、校務の多忙化や若手教員の育成等、各学校の今日的な課題に対応した運営方法を検討する。

3 研究内容

(1) 研究部

研究テーマ「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた指導の工夫・改善」
【 目指す児童生徒像 】

- 自ら考え協働的に活動し，問題を解決できる児童生徒

【授業づくりグループ】

- 研究課題



「単元・題材のまとまりを見通した学習指導の工夫・改善」

- 構成員～副所長（市内教頭1），所員5名（小3，中2）

- 研究内容

・研修講座：8月23日（金）蘭北小

※令和元年度は、初任段階教員を対象とした新学習指導要領をふまえた学習指導案の作成をテーマに実施

・授業づくりに係るリーフレットの作成 ※ 研修資料として市内全教員へ配布

【ICT活用グループ】

○ 研究課題



「児童生徒の主体性・協働する力を高め、学習理解を深める ICT の効果的な活用」

○ 構成員～副所長（市内教頭 1），所員 4 名（小 2，中 2）

○ 研究内容

- ・研修講座：12月6日（金）白蘭小
※ 令和元年度は小・中学校でのプログラミング教育の実践と体験をテーマに実施
- ・プログラミング教育の調査研究
- ・プログラミング教育に係るリーフレットの作成

【道徳教育グループ】

○ 研究課題

「考える道徳」「議論する道徳」科の工夫・改善



○ 構成員～主任所員（指導主事 1），研究推進員（小 1），所員 3 名（小 1，中 2）

○ 研究内容

- ・公開授業研：12月3日（火）高砂小
- ・「道徳の時間」の指導に係るリーフレットの作成

【外国語教育グループ】

○ 研究課題



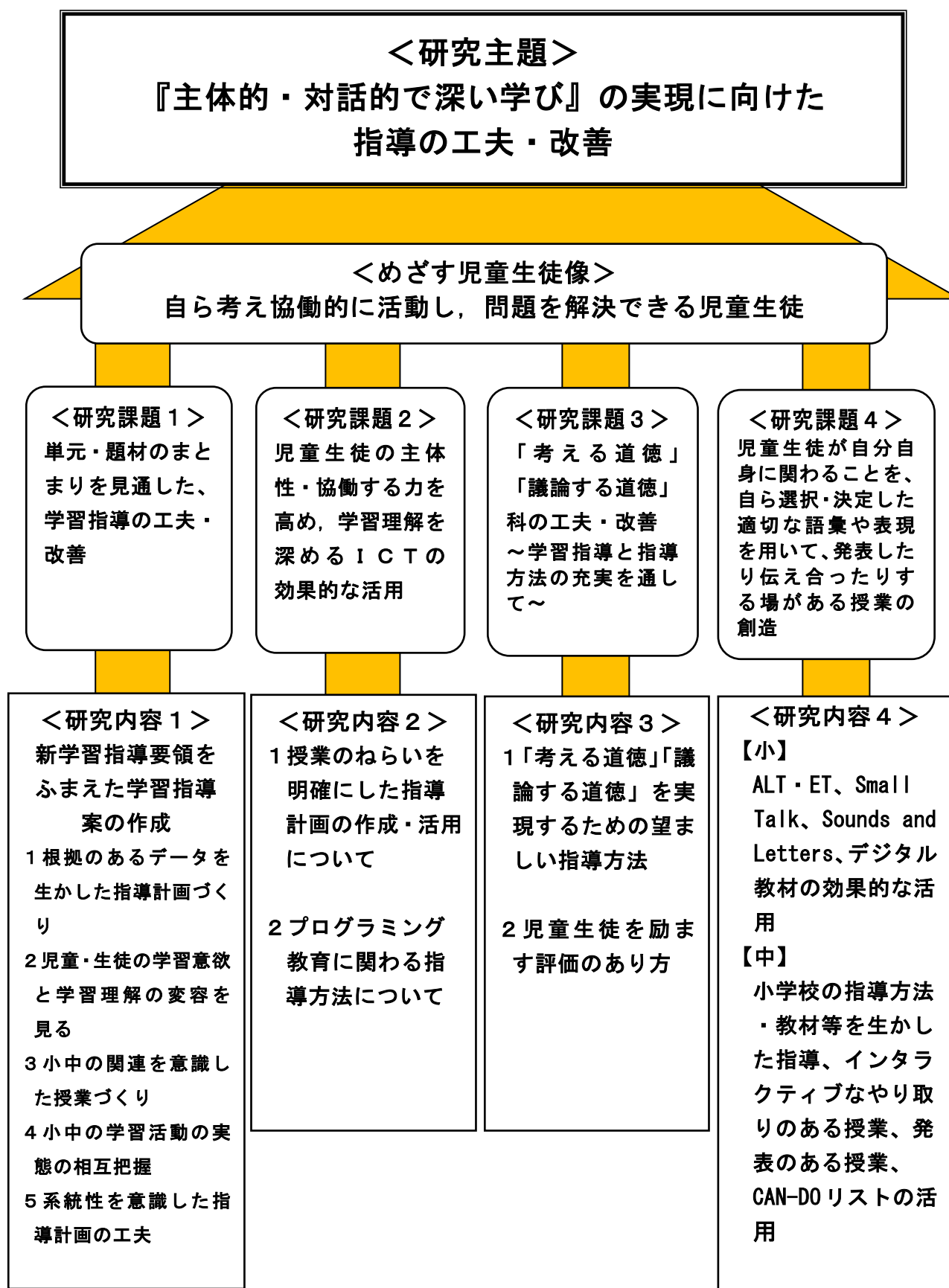
児童生徒が自分自身に関わることを、自ら選択・決定した適切な語彙や表現を用いて、発表したり伝え合ったりする場がある授業の創造

○ 構成員～研究推進員（教育委員会 1），所員 5 名（小 3，中 2），研究員 6（ALT 3，AET 3）

○ 研究内容

- ・研修講座：6月20日（木）海陽小，7月12日（金）みなと小，
1月17日（金）桜蘭中
※ 令和元年度は，各学校の校内ミニ研修と兼ねる形で，公開授業・研修講座を実施
- ・教材の効果的な活用と効果の検証
- ・外国語活動に係る授業実践リーフレットの作成
- ・新学指導要領に対応した指導計画の作成
- ・外国語活動に係る研修講座の開催
- ・活動プログラム事例集の作成
※ H27よりDVDに実践事例を動画編集して作成。また，ビデオクリップを研究所ホームページ，共有フォルダにアップロード

4 研究の構想



5 研究の推進計画

- 第3期学力向上基本計画に合わせ、平成30年度より5年計画で研究を推進する。
- 研究の手順を明らかにするため、P【計画】→D【実施】→C【評価】→A【改善】のマネジメントサイクルの視点を重視し計画する。
- 3年次の研究の終了時（新学習指導要領全面実施を見据えて）に、教育の情勢や教育における新たな課題を受け、研究内容の見直しを図る。

研究年次	1年次 (平成30年度)	2年次 (令和元年度)	3年次 (令和2年度)	4年次 (令和3年度)	5年次 (令和4年度)
学習指導要領移行スケジュール					
Plan 【計画】	○研究課題の把握	○推進計画の見直し	○推進計画の見直し	○研究課題の把握	○推進計画の見直し
	○研究主題の設定			○研究主題の設定	
	○研究仮説の設定	○研究仮説の修正	○研究仮説の修正	○研究仮説の設定	○研究仮説の修正
	○研究内容の具体化	○検証計画の樹立	○検証計画の樹立	○研究内容の具体化	○検証計画の樹立
	○検証計画の樹立			○検証計画の樹立	
Do 【実施】	○検証のための実践	○検証のための実践	○検証のための実践	○検証のための実践	○検証のための実践
Check 【評価】	○研究結果の整理	○研究結果の整理	○研究結果の整理	○研究結果の整理	○研究結果の整理
	○初年度のまとめ	○初年度のまとめ	○初年度のまとめ	○初年度のまとめ	○初年度のまとめ
	○成果と課題の発表	○成果と課題の発表	○成果と課題の発表	○成果と課題の発表	○成果と課題の発表
Action 【改善】	○推進計画の見直し	○推進計画の見直し	○次の研究の方向性の確認	○推進計画の見直し	○次の研究の方向性の確認

〈資料 1〉 学習指導案の形態について

第〇学年 〇〇科学習指導案

日 時 令和元年〇〇月〇〇日 (〇)

第〇校時 10:35~11:20

児童・生徒 〇〇学校 〇年〇組

男子〇名 女子〇名 計〇名

指導者 研究員 〇〇 〇〇

1 単元名・題材名 「〇〇〇〇」 本時 〇/〇

2 単元・題材の目標

3 単元について

(1) 単元観

本単元では、・・・という活動の中で・・・ということを主なねらいとする。また、・・・ということなどもねらいのひとつである。

(最初の項目は、一般的な「単元観」と呼ばれているもの。この単元で、どのような活動を取り入れ、どんなことに触れさせ、そして、どのような力を育てることをねらうのかといったことを記述する。したがって、「〇〇のような活動の中で、〇〇に触れさせながら、〇〇することを主なねらいとする」というような表現が見られる。)

(2) 児童観

本学級では、〇月に行った児童アンケートによると、・・・。普通の授業では、・・・という姿も見られる。その反面、・・・という児童もおり、・・・。また、これまで〇〇のような言語活動を展開してきた。今回は〇〇の言語活動に取り組む機会としたい。

(2番目の項目は、「児童観」と呼ばれるもので、児童の実態を書くことになる。本学級児童の授業の中での様子、レディネステストやアンケートの結果や興味関心などについて表記する。また、研究内容（ICTを活用した学習の様子など）についても表記する。)

(3) 指導観

そこで、指導に当たっては、まず第一に・・・ということに留意したい。・・・したり、・・・したりさせる中で、・・・という意欲を高めるような工夫をする。そして、・・・。

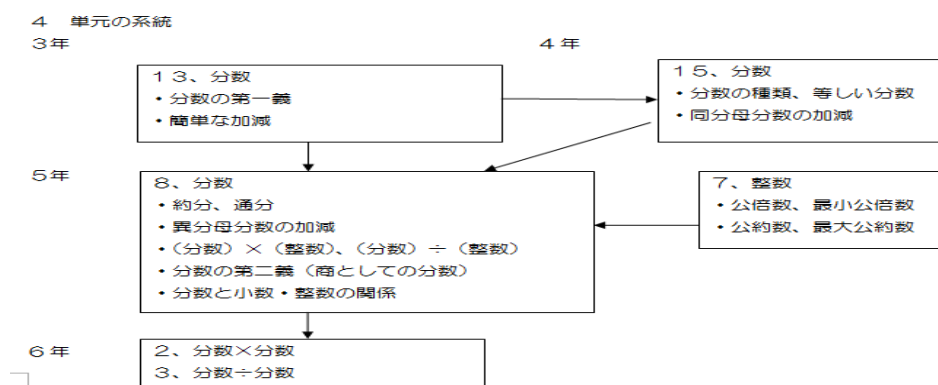
(3番目の項目は「指導観」と呼ばれるもので、指導上の留意点や手立てなどを書く。つまり、「こんな単元だから（単元観）」、そして、「こんな子どもたちだから（児童観）」→「このような指導をしたい（指導観）という構成になる。」)

4 単元の系統

※学年と単元名のみ。

※低学年は高学年へのつながりを、高学年は中学校へのつながりを表記する。

(例) 算数科 小学校第5学年 単元名「面積」



5 単元の評価規準

(例) 国語科 小学校第2学年 単元名 はっぴょうしよう「あったらいいな、こんなもの」

国語への関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	言語についての知識・理解・技能
・相手に分かるように話したり、友だちの考えたものについて聞こうとしたりしている。	・身近なところから想像を広げ、説明のために必要なことを考えている。 ・目的を考えてやりとりをしている。 ・友だちの説明を聞き、質問したり、感想を言ったりしている。 ・声の大きさ、速さ、顔の向きなどに注意して話している。	・事物の形や働きを表す言葉の働きに気づいている。

(例) 理科 中学校第1学年 単元名 植物のくらしとなかま

自然現象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象についての知識理解
・いろいろな花に興味をもち、意欲的に調べようとする。 ・花のどの部分が果実や種子になるのかについて、興味をもち、調べようとする。 ・これまでとは異なる裸子植物の花に関心をもち、意欲的に調べようとする。	・観察記録に基づいて、花のつくりの共通点と相違点を見出すことができる。 ・果実や種子のつき方を花のつくりと関連づけて考えることができる。 ・マツの花のつくりを見出すことができる。 ・観察の結果から、それを分析し解釈することで花のつくりを見出すことができる。	・花を順序良く分解し、テープに貼って整理することができる。 ・花のめしべの断面をルーペや顕微鏡で観察することができる。 ・観察を通して導き出した自らの考えを表現することができる。	・被子植物の花の基本的なつくりを説明することができる。 ・めしべの子房が果実に、胚珠が種子になること、花が仲間を増やすための器官であることを説明することができる。 ・被子植物と裸子植物の花のつくりの違いと共通点を説明することができる。

※必要に応じて、項目を増減する。

6 単元・題材の指導計画

(例) 国語科 小学校第4学年 単元名 「読んで考えたことを話し合おう」

時間	単位時間の目標	○主な学習活動 *言語活動	■評価規準 □評価方法
1 5 2 (本時)	学習のねらいを確かめ、「感想交流会」に向けた見通しをもつことができる。	○これまでの学習を振り返り、文学的な文章を読む際の視点について確認する。 ○本単元の学習のねらいや「感想交流会」の内容を知り、学習の見通しをもつ。	■物語を読んで、好きなことや心がひかれるところに着目しながら感想を述べようとしている。【関】 □発言、話し合いの様子 ■「漢字仮名交じり文」の表記に気を付けて、文や文章を読んでいる。【言-①】 □音読
	『ごんぎつね』を読み、印象に残った場面を選ぶことができる。	○「ごんぎつね」を読み、印象に残った場面を選ぶ。 ○難語句について確認する。 *物語を読み、印象的な場面を選ぶ。	
3	場面の移り変わりや叙述に着	○叙述に即して場面の移り変わりや登場	■登場人物の性格や気持ち

○単元全体の評価規準を明確にし（5. 単元の評価規準）、それを達成するために各時間の学習活動を設定し（6. 単元・題材の指導計画）、そこに具体的な評価規準を当てはめることで、指導と評価を一体化させる。

○自分で考え（主体的）、対話によって考えを相対化し（対話的）、考えを形成・表現する（深い学び）学習の流れは、1単位の学習時間の中で全て行えるとは限らない。単元や題材のまとまりの中で、学習を見通す場面、学びを振り返る場面、グループなどで対話する場面、子どもが考える場面、教員が教える場面などを、意図的に配列し計画していく。

7 本時の学習

(1) 本時の目標と評価規準

(例) 算数科 小学校第5学年 単元名「平行四辺形と三角形の面積」

目 標	既習の図形の面積の求め方を活用して、三角形の面積の求め方を考えることができる。
評価規準	■長方形や平行四辺形の面積の求め方を活用して、三角形の面積の求め方を考えている。【数学的な考え方】

(例) 国語科 中学校第3学年 単元名「自分のよさをPRしよう」

目 標	効果的な話し方を工夫した自己PRをすることができる。
評価規準	■模擬面接の自己PRを通して、自分の人柄や考えなどを初対面の相手に伝わるよう工夫している。【関-②】 ■初対面の人に自分のよさを伝えるために話し方や言葉遣いを工夫したり、聞き手の反応に応じて言い換えたりしながら自己PRをしている。【話・関-②】

(2) 「本時学習活動とそのねらいを達成するための工夫」又は

「本時における ICT 機器の活用」等

(例) 算数科 小学校第5学年 単元名「面積」～授業づくりグループ

(2) 本時の学習活動とそのねらいを達成するための工夫

今回の授業のねらいは、授業づくりグループが提唱する研究内容のうちの、主に3つめ（話し合い活動）と4つめ（乗り入れ授業）となる。

本時においては、三角形の面積をどのように求めたのかを図や公式をもとに簡単に説明させる場面や、表を見ながら高さ及び底辺と面積の関係性を求めて工夫して説明させる場面を入れる。その中で、教科書の問題文に出ている「〇〇が1cmずつ増えていくと、面積は～。」「〇〇が2倍、3倍…になると、面積は～」という比例で用いた表現を活用する意識をもたせ、説明につなげる。一方で、問題解決に見通しがもてない児童に対しては、教師や分かっている児童が率先して、図や簡単な質問を交えて説明し、そこから見える法則に気付かせるような関わりをもつことを、話し合い活動の主たるねらいとする。本時の学習内容の実感を伴う理解を目指して、説明する活動を進めることを大切にしていきたい。…（以下 略）

(3) 本時の展開

(例) 算数科 小学校第5学年 単元名「平行四辺形と三角形の面積」

過程	○主な学習活動 *言語活動 ・予想される児童の発言	◇教師の主な働きかけ ・留意事項	■評価規準□評価方法▲努力を要すると判断される児童への手立て
導入	<p>【問題】⑥と⑦の三角形のうち、どちらの面積が大きいですか</p> <p>○解決の方法の見通しをもつ ・面積を比べるための方法を考える必要がある。 ・これまでの学習を生かして三角形の面積の求め方を考えてみる。</p>	<p>◇底辺と高さがそれぞれ等しい三角形と直角三角形を提示する。 ◇既習の図形の面積の求め方を生かして、新たな図形の面積を求める意欲を高めるように促す。</p>	

<p>展開</p>	<p>○三角形の面積の求め方について、考えをノートにまとめる。</p> <p>〔自力解決〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方眼の数を数える。 ・～ <p>*同様の考え方の少人数のグループを編成し説明し合う。</p> <p>〈グループA〉 三角形の高さが半分になるように切ったら平行四辺形ができた。</p> <p>〈グループB〉～</p> <p>〈グループC〉～</p>	<p>◇既習事項を基に、図や言葉、式を用いて、三角形の面積の求め方を考えるように促す。</p> <p>◇図を操作しながら考えることができるように、方眼紙を切り取った三角形を提示する。</p> <p>◇T、Tを活用し、各グループで視点を明確にした話し合いを通して、三角形の面積を求める公式を考えるように促す。</p> <p>〈話し合いの視点〉</p> <p>グループA：三角形の高さ</p> <p>グループB：2つの三角形</p>	<p>■長方形や平行四辺形の面積の求め方を活用して、三角形の面積の求め方を考えている。【考】</p> <p>□ノート，発言</p> <p>▲既習の長方形や平行四辺形を想起できるよう具体物を提示する。</p>
	<p>*各グループの考え方を説明する。【集団解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「$\div 2$」の意味が違う。～ <p>○練習問題に取り組み、面積を求める過程を確かめる。</p> <p>○学習内容の理解の程度を確かめ、家庭学習の見通しをもつ。</p>	<p>◇各グループに、考え方の共通点や相違点を考えるよう促す。</p> <p>◇児童の考えを生かし、三角形の面積を求める公式をまとめる。</p> <p>◇練習問題の理解に応じて家庭学習の問題を提示する。</p>	

※評価規準・評価方法・努力を要すると判断される児童への手立て（指導と評価の一体化より）については、本時の展開の中で位置付ける。

（例）国語科 中学校第3学年 単元名「自分のよさをPRしよう」

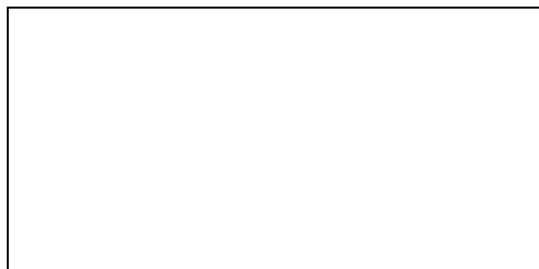
<p>過程</p>	<p>○主な学習活動 *言語活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される生徒の発言 	<p>◇教師の主な働きかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・留意事項 	<p>■評価規準□評価方法▲努力を要すると判断される生徒への手立て</p>
<p>導入</p>	<p>○第1時に計画した学習のめあて及び第2時で考えた効果的な話し方と模擬面接の進め方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問に対して誠実に応えたい。 ・TPOに合った言動に注意しよう。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">模擬面接で自分のよさを伝える効果的な話し方を考えよう</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><模擬面接の進め方（例）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 面接時間3分、交流時間3分で、3人グループ内で役割を交代する。 2 面接時の様子をデジタルカメラの動画で撮影する。 3 質問役は、動機や抱負、自己PRなどの質問を行う。（質問集参照）・・・ </div>	<p>◇ワークシートを振り返り、自分のめあての達成を図るよう促す。</p> <p>◇模擬面接の進め方を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予め模擬面接の順番や座席配置等の準備をさせ、活動時間を保証する。 	<p>■模擬面接の自己PRを通して、自分の人柄や考えなどを初対面の相手に伝わるよう工夫している。</p> <p style="text-align: right;">【関-②】</p> <p>□学習の観察</p> <p>▲ワークシートやノートで面接の目的や条件を確認させ、できていることと改善点を明確にする。</p>

展 開	<p>○ワークシート②を活用しながら、自己PRスピーチの練習をする。〔個人〕</p> <p>*模擬面接を行う。(1人6分×3人) 〈相互評価の観点(例)〉</p> <p>ア聞き手を意識した声の大きさや間がある。</p> <p>イ表情や姿勢、言葉遣いは面接に適している。</p> <p>ウ聞き手を意識し、面接者のよさや人柄が伝わる話し方の工夫をしている。</p>	<p>◇5つの言語意識を踏まえ、学習のめあてを意識した自己PRとなっているかを見取り、助言する。</p> <p>◇本時の課題を再確認し、模擬面接後は効果的な話し方についてまとめることを説明する。</p> <p>◇相互交流では、質問役の生徒も気がついた点を指摘するようにする。また、必要に応じて、VTRを活用し、自己評価をしながら、交流するように促す。</p>	<p>■初対面の人に自分のよさを伝えるために話し方や言葉遣いを工夫したり、聞き手の反応に応じて言い換えたりしながら自己PRをしている。【話・聞一②】</p> <p>□学習の観察、ワークシートの記述</p> <p>▲他の生徒の具体的な様子や内容を紹介するなどして自己PRの改善の方向性を示す。</p>
終 末	<p>○ワークシートを活用し、自分の学習のめあてに基づいた振り返りをするとともに、効果的な話し方のポイントを考え、ノートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TPOに適した言動をする。 ・聞き手の心を動かすため、具体例を挙げ、学んだことなどを付け加える。 ・～ 	<p>◇模擬面接時に聞き手を意識し自分のよさや人柄を伝える話し方の工夫を行っていた生徒や、第1時と比較し効果的に改善できた生徒をVTRで紹介し、～</p> <p>◇効果的な話し方について自分の考えをもたせ、ノートに記述するよう促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価の低い生徒や学習のめあての達成が図られなかった生徒は休み時間や放課後等に補充を行うようにする。 	

8 板書計画 ※板書・掲示物等黒板のレイアウトを示す。



9 資料 ※ワークシート・ふりかえりカードなどの資料があったら、載せる。また、座席表が必要な場合はイニシャル表記でここに載せるが、紀要には掲載しない。



〈資料 2〉 ワークショップ型の研究会について（本市教育研究所の例）

＜ワークショップ型研究会 進行のポイント＞

- 1 授業参観前に、授業の視点とワークショップ型研究会についての説明を行う。
- 2 参観者は授業を参観しながら授業の視点に沿って書き込んだ付箋（メモ）を、「授業分析個人メモ表」に貼っていく。この付箋（メモ）が、研究会を活性化させる。
成果と思われる点…青い付箋（手立てについての成果・学んだ点・感心させられた事・工夫がみられた点等）
課題と思われる点…赤い付箋（課題として上げられる点、気になること等）
その他、気がついた点、または改善提案…黄色い付箋
- 3 研究会グループは、意見を出す時間を生み出すため「3人～4人班」が望ましい。
- 4 ワークショップ開始時に、司会者がグループと席を発表する。→移動
- 5 3色の付箋とグループの話し合いで使用する「授業分析表（班）」（模造紙）の準備を忘れない。
- 6 研究会の時間の配分は、あらかじめ決めておく。（30分程度）
- 7 グループ毎に話し合った内容を発表・交流する。
○グループの発表に対して、何か質問や意見があれば取り上げる。
- 8 まとめ（助言者）（10分程度）



＜グループ（班）話し合いのポイント＞

- 1 「司会者」と「記録者」を立て進める。
※「司会者」は「ファシリテーター」を兼ねる。
※グループ全員がファシリテーションの意識をもって臨む。
○オープン・クローズドクエスションの使い分け、「傾聴」の意識、対立意見のマネジメント
- 2 グループ内で、付箋の確認と貼り方のポイントを確認する。
○同じ意見は整理（グルーピング）していく。随時付箋を動かし視覚化を図る。
- 3 整理（グルーピング）できたら、囲みをつけたり、見出しをつけたりする。
○付箋は、思考の整理をするのがねらいで、メモと捉えてよい。
- 4 授業の「良かった点」や「改善点」「改善提案」等、共通点や相違点を整理し、発表する内容を選択する。
○授業者に質問が出た場合などは、答えてもらう。
- 5 グループで話し合った内容を発表する。

